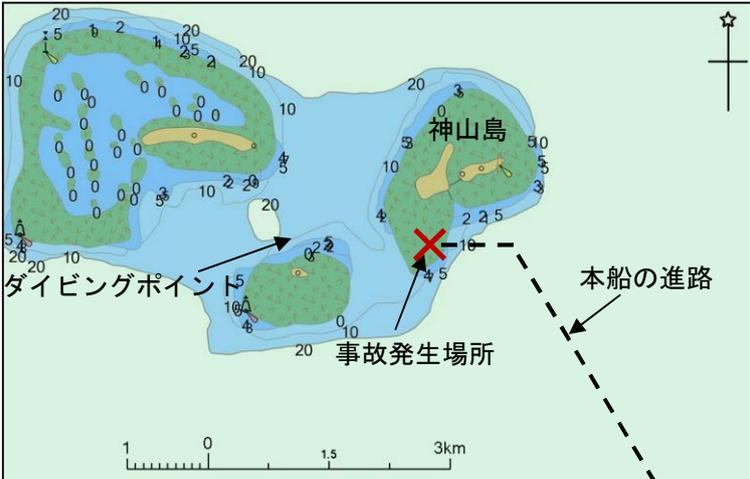


船舶事故調査報告書

令和6年6月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和5年12月30日 08時18分ごろ
発生場所	沖縄県 ^{とかしき} 嘉敷村 ^{かみやま} 神山島南西方沖 神山島灯台から真方位217° 1,260m付近 (概位 北緯26° 15.2′ 東経127° 34.6′)
事故の概要	ダイビング船ビューティーベルは、西進中、浅瀬に底触して投錨した後、北方に圧流され、浅瀬に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和6年1月9日、主管調査官（那覇事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	ダイビング船 ビューティーベル、17トン
船舶番号、船舶所有者等	294-23581 沖縄、株式会社ヒーロー
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特定
負傷者	なし
損傷	船首部船底外板に擦過傷、両舷のプロペラ、プロペラ軸、ブラケット、及び舵板に曲損
気象・海象	気象：天気 雨、風向 南、風速 約10～12m/s、視程 約1,000m 海象：波高 約1.5～2.0m、潮汐 上げ潮の末期（09時35分ごろ満潮）、潮高 約1.3m
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、インストラクター1人及びダイビング客3人を乗せ、雨が降る中、GPSプロッターを作動させ、神山島西南西方沖のダイビングポイントに向けて、同島南東方沖を約21ノットの対地速力で北西進していた。（図1参照）</p>  <p>図1 事故発生場所概略図</p> <p>船長は、神山島周囲には浅瀬があることを知っており、南東方沖約</p>

	<p>1,000m付近で同島を視認した後、目的地に向けて左転し、同島を右舷方に見ながら、本船を西進させた。</p> <p>船長は、ふだんから神山島周辺海域を航行していて慣れた海域であったので、同島南方沖で同島を右舷方に見て目測で約1,000mの距離を取ってそのまま西進すれば、同島周囲にある浅瀬から十分離れていると思い、GPSプロッターを確認せず、目視のみで見張りを行いながら西進を続けていたところ、本船のプロペラが浅瀬に擦って底触した音が聞こえた。</p> <p>船長は、すぐに減速するとともに主機を中立運転として漂泊し、周囲を見たところ、水深が浅い場所であることを認め、インストラクターと共に船尾から錨を投入したものの、本船は、南寄りの風及び波で北方に圧流され、錨を引き摺りながら、浅瀬に乗り揚げて止まった。</p> <p>船長は、主機を停止し、僚船への連絡及び118番通報を行い、ダイビング客3人及びインストラクターは僚船に、船長は来援した巡視船にそれぞれ救助された。</p> <p>本船は、後日、船長が手配した作業船によってえい航された。</p> <p>船長は、ふだん本事故発生場所付近を航行するときには、比較的低潮時が多く、干出した浅瀬を確認しながら航行していたが、本事故当時、潮位が高く、浅瀬が見えなかったので、目測で同島との距離を誤って判断し、浅瀬に接近していることに気付かなかったと本事故後に思った。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.3m、船尾約1.2mであった。</p>
<p>分析</p>	<p>本船は、神山島南方沖を西進中、潮位が上がり、同島周囲の浅瀬が見えない状況下、船長が、目測のみで同島からの距離を取り、浅瀬から十分離れていると思い、西進を続けたことから、浅瀬に接近して航行していることに気付かず、浅瀬に底触し、すぐに機関を中立運転として投錨したものの、圧流され、浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、ふだんから神山島周辺海域を航行しており、慣れた海域であったことから、同島を右舷方に見て目測で距離を取りながら、GPSプロッターを確認せずに航行していたものと考えられる。</p> <p>船長は、ふだん本事故発生場所付近を航行するときには、比較的低潮時が多く、干出した浅瀬を確認しながら航行していたものの、本事故当時、潮位が高く、浅瀬が見えなかったことから、目測で同島との距離を誤って判断したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、神山島南方沖を西進中、潮位が上がり、同島周囲の浅瀬が見えない状況下、船長が、目測のみで同島からの距離を取り、浅瀬から十分離れていると思い、西進を続けたため、浅瀬に底触し、すぐに機関を中立運転として投錨したものの、圧流され、浅瀬に</p>

	乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船長は、慣れた海域であっても、海図等により浅瀬の陸岸からの距離、水深等の水路調査を行い、十分に把握するとともに、目測での距離感で島等との距離を判断せず、GPSプロッター等を活用して船位を把握すること。